

1. 教育・学習に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	学習成果の達成につながるよう各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	課程修了時に求められる学習成果の達成のために適切な授業形態、方法をとっているか。また、学生が学習を意欲的かつ効果的に進めるための指導や支援を十分に行っているか。	成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	教育課程及びその内容、教育方法について定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいるか。
自己評価 (☑を記入)	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☒ 講じている ☐ 一部講じている ☐ 講じていない	☒ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☒ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない
点検項目に対する 現状説明	博士前期課程に関しては、教育課程編成・実施の方針(カリキュラムポリシー)に基づき、情報処理や情報科学に関連する研究を推進していくための総合情報学や基礎知識を修得する「基礎科目」を配置している。「情報システム系列」、「社会情報系列」、「ヘルスケア情報系列」の3つの系列においては、それぞれの専門的特徴を活かした「専門科目」(コースワーク)を配置し、「修士特別研究」(コースワーク)により、研究・開発能力を修得する研究指導、「修士特別演習」(リサーチワーク)により、研究の素養を修得する口頭論文発表会や修士論文発表会などを実施している。なお、「専門科目」(コースワーク)に関しては、学部教育との接続性を考慮し、「情報システム系列」では、システム開発、ネットワーク、知能情報、環境情報、データサイエンスの各分野、「社会情報系列」では、メディア情報、経営・社会情報の各分野、「ヘルスケア情報系列」では、保健医療福祉の分野に分類して体系化することで、学生の専門性に対する科目選択の方向性を明確化している。 博士後期課程に関しては、教育課程編成・実施の方針(カリキュラムポリシー)に基づき、総合情報分野において、情報化社会における諸問題を的確に捉え、独	博士前期課程と博士後期課程の学位授与方針(ディプロマポリシー)を達成するための適切なシラバスになっているかを評価するために、第三者の教員によるチェックを行っている。具体的には、「基礎科目」、「専門科目」、「修士特別研究」(コースワーク)、「修士特別演習」(リサーチワーク)のシラバスに、学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)の(専門知識・技能)、(研究・開発能力)、(研究の素養)と関連付けた到達目標を明記し、その到達目標を達成するための授業方法や授業計画を組み立てているかのチェックを実施している。科目履修指導と研究指導に関しては、学生ハンドブックの「学位取得までの流れ」と「論文計画書の提出から学位論文審査の申請まで」において、年間スケジュール、科目履修指導、研究指導の内容を明示し、これに基づいて実施している。また、論文計画書において、複数の指導教授及び指導准教授による指導体制を明示し、科目履修指導と研究指導の強化を図っている。 大学院生の研究成果の把握と学習・研究意欲の向上のために、以下の内容を実施している。口頭論文発表会(中間報告)の際に、複数の教員によるルー	成績評価及び単位認定を適切に行うための措置： ・「授業科目の履歴及び単位認定」を「学生ハンドブック」、東京情報大学大学院学則第6条から第8条に基づき、「授業科目の履修及び単位認定」を「学生ハンドブック(諸規則諸規程)」に明示し、単位認定を行っている。 ・東京情報大学大学院学則第12条及び第13条に基づき、「課程修了の要件」を「学生ハンドブック(諸規則諸規程)」に明示し、修了判定を行っている。 学位授与を適切に行うための措置： ・東京情報大学大学院学則第14条から第18条に基づき、「学位論文(博士前期課程)審査のための要件及び方法」及び「博士(総合情報学)の学位授与のための要件及び方法」を「学生ハンドブック(諸規則諸規程)」に明示し、論文審査と最終試験を行い、学位を授与している。 博士前期課程の修了要件は、大学院学則第12条の規定に基づき、修士の学位授与のための基準及び方法を設け、主査(主担当指導教員)及び副査(副担当指導教員)による論文審査、最終試験を行っている。論文審査、最終試験の評価に	博士前期課程と博士後期課程の学位授与方針(ディプロマポリシー)に明示してある(専門知識・技能)、(研究・開発能力)、(研究の素養)を把握、評価するため、口頭論文発表会(中間報告)の際にループリック型のパフォーマンス評価を実施している。パフォーマンス評価では、「テーマ設定」、「研究内容」、「発表内容」の3つの観点から9項目を設定して口頭論文発表会(中間報告)の際にパフォーマンス評価を実施することで学生の研究活動の進捗状況を把握、評価している。また、その評価内容と集計結果を、当該学生の指導教員を通じて学生にフィードバックし、その後の学習・研究意欲の向上や研究活動の改善に活用している。また、「基礎科目」、「専門科目」、「修士特別研究」(コースワーク)、「修士特別演習」(リサーチワーク)のシラバスに、学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)の(専門知識・技能)、(研究・開発能力)、(研究の素養)と関連付けた到達目標を明記し、到達目標を達成した場合にのみ単位を授与している。 学位授与のための論文審査、最終試験に合格した大学院生に対して、研究科委員会が主催する論文発表会を実施し、大学院生の中から大学院論文優秀賞を選定	2021年度から、学部教育との接続性を考慮し、「情報システム系列」、「社会情報系列」、「ヘルスケア情報系列」の3つの系列を柱とした大学院教育課程を運用している。また、「修士特別研究」(コースワーク)により、研究・開発能力を修得する研究指導、「修士特別演習」(リサーチワーク)により、研究の素養を修得する口頭論文発表会や修士論文発表会などを実施している。 2027年度から、「情報システム学系」、「データサイエンス学系」、「情報メディア学系」の3つの学系を柱とした学部教育を受けてきた学部生が大学院に進学する状況を踏まえ、2024年度の「総合情報学部将来構想検討委員会」において、「情報システム学系」、「データサイエンス学系」、「情報メディア学系」に対応する大学院教育課程、あるいは、新たな大学院教育課程の検討を実施している。加えて、データ駆動型の研究が急速に進展している状況を踏まえ、先端データ科学研究センターの「早期研究体験プログラム」との連携による大学院教育課程の検討を実施している。 「基礎科目」と「専門科目」(コースワーク)の改善・向上に向けた取り組みとしては、受講生による科目ごとの「授業評価アンケート」を実施し、その結果を講義担当者へフィードバックすることで、講義

	創的な考えで研究活動の行う研究の素養を修得するための科目として「情報哲学」（コースワーク）を配置している。博士前期課程で修得した専門知識や研究能力を基礎として、「博士特別研究」（コースワーク）により、極めて高度な専門知識、論理的で独創的な研究・開発能力を修得する研究指導、「博士特別演習」（リサーチワーク）により、研究成果や解決策を的確に社会へ発信する情報発信力、コミュニケーションなどの能力を養う口頭論文発表会や博士論文発表会などを実施している。	ブリック型のパフォーマンス評価を実施することで大学院生の研究活動の進捗状況を把握、評価している。また、その評価内容と集計結果を、当該学生の指導教員を通じて学生にフィードバックし、その後の学習・研究意欲の向上や研究活動の改善に活用している。さらに、口頭論文発表会（中間報告）の過去から現在までの発表資料やループブリック型のパフォーマンス評価を指導教員と大学院生間、大学院生同士で共有できるようにし、自己成長過程の確認やレビューにより、学習・研究意欲、研究・開発能力、研究素養の向上を図っている。入学後の研究活動に係わる環境作りに関しては、「部門・土地建物等利用委員会」に大学院生の研究室を申請して、研究活動スペースを確保し、大学院生同士によるコミュニケーションや研究アイデア創出を促進している。また、先端データ科学研究センターをデータサイエンス研究の拠点にし、学部生から大学院生までがデータサイエンスに関する研究を進める環境を整備している。	基づき修士の学位授与のための最終審査（研究科委員会）において判定している。博士後期課程の修了要件は、大学院学則第 13 条の規定に基づき、博士の学位授与のための基準及び方法を設け、主査及び副査による論文審査、最終試験を行っている。研究科委員会が主催する公聴会及び論文審査、最終試験の評価に基づき博士の学位授与のための最終審査（博士課程研究科委員会）において判定している。	して授与している。	の質の改善・向上を図っている。「修士特別演習」と「博士特別演習」（リサーチワーク）の改善・向上に向けた取り組みとしては、口頭論文発表会（中間報告）の際に、複数の教員によるループブリック型のパフォーマンス評価を実施することで大学院生の研究活動の進捗状況を把握、評価している。また、その評価内容と集計結果を、当該学生の指導教員を通じて学生にフィードバックし、その後の学習・研究意欲の向上や研究活動の改善に活用している。また、論文計画書に明示された複数の指導教授及び指導准教授による指導体制の下で、大学院生の研究活動の進捗状況を把握、評価することにより、研究活動の改善に取り組んでいる。
現状説明を踏まえた長所・特色	【長所】 ・系列・専門分野において体系化した科目群の配置し、選択できるようにしている。	【長所】 ・複数の教員によるループブリック型のパフォーマンス評価や研究指導体制の整備を実施している。 ・口頭論文発表会（中間報告）における過去から現在までの発表資料やループブリック型のパフォーマンス評価の共有を行い、学習・研究意欲、研究・開発能力、研究素養の向上を図っている。 ・大学院生の研究活動スペースを確保し、大学院生同士によるコミュニケーションや研究アイデア創出を促進している。	【長所】 ・特になし	【長所】 ・特になし	【長所】 ・特になし

	【特色】 ・「情報システム系列」、「社会情報系列」、「ヘルスケア情報系列」の3つの系列において、それぞれの専門的特徴を活かした「専門科目」（コースワーク）を編成し、「修士特別研究」（コースワーク）により、研究・開発能力を修得する研究指導、「修士特別演習」（リサーチワーク）により、研究の素養を修得する口頭発表や修士論文発表会などを実施している。	【特色】 ・総合情報学部「先端データ科学研究センター」と連携し、学部から大学院までの学生がデータサイエンスに興味を持ち、データサイエンスに係わる研究を進める環境を整備している。	【特色】 ・特になし	【特色】 ・「テーマ設定」、「研究内容」、「発表内容」の3つの観点から9項目を設定して口頭論文発表会（中間報告）の際にパフォーマンス評価を実施することで学生の研究活動の進捗状況を把握、評価している。また、その評価内容と集計結果を、当該学生の指導教員を通じて学生にフィードバックし、その後の学習・研究意欲の向上や研究活動の改善に活用している。	【特色】 ・特になし
現状説明を踏まえた問題点及び次年度への課題	【問題点】 ・特になし	【問題点】 ・特になし	【問題点】 ・特になし	【問題点】 ・特になし	【問題点】 ・特になし
	【課題】 ・学部改組に対応する大学院教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）を検討する。	【課題】 ・社会人大学院生に関しては、通常の勤務をしながら修士や博士の学位を取得する場合が考えられる。本件については、今後、具体的事案が発生した場合に、6・7 限開講・土曜日開講・集中講義・オンライン授業・オンデマンド授業などの対応を検討する必要がある。	【課題】 ・特になし	【課題】 ・口頭論文発表会における過去から現在までの発表資料やループリック型のパフォーマンス評価の共有化を行っているが、さらなる学習・研究活動を支援するためのシステムについての検討を進める必要がある。	【課題】 ・2027 年度からの大学院教育課程の検討を進める必要がある。 ・大学院生の研究活動の改善のために、論文計画書に明示された複数の指導教授及び指導准教授による指導体制の下で、研究活動の進捗状況を把握、評価する機会を定期的実施する仕組みづくりの検討を進める必要がある。
根拠資料名	・学生ハンドブック 2024 （大学院総合情報学研究科）	・学生ハンドブック 2024 （大学院総合情報学研究科） ・学生ハンドブック 2024 諸規則諸規程（東京情報大学大学院学則） ・第 354 回東京情報大学大学院拡大研究科委員会資料（資料 1 修士論文計画書） ・第 360 回東京情報大学大学院拡大研究科委員会資料（資料 10 ループリックパフォーマンス評価） ・第 362 回東京情報大学大学院拡大研究科委員会資料（資料 5 大学院シラバス作成について）	・学生ハンドブック 2024 （大学院総合情報学研究科） ・学生ハンドブック 2024 諸規則諸規程（東京情報大学大学院学則） ・第 362 回東京情報大学大学院拡大研究科委員会資料（資料 2 博士前期課程修了判定に関する件）	・学生ハンドブック 2024 （大学院総合情報学研究科） ・学生ハンドブック 2024 諸規則諸規程（東京情報大学大学院学則） ・第 360 回東京情報大学大学院拡大研究科委員会資料（資料 10 ループリックパフォーマンス評価） ・資料：東京情報大学大学院論文優秀賞（松田賞）及び日本学生支援機構奨学金返還免除者の選定基準について	・学生ハンドブック 2024 （大学院総合情報学研究科） ・第 358 回東京情報大学大学院拡大研究科委員会資料（資料 5 大学院将来構想の実施内容） ・第 362 回東京情報大学大学院拡大研究科委員会資料（資料 4 授業評価アンケート集計）

2. 学生の受け入れに関する点検・評価項目

	①	②																																																																																																																																
点検項目	学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。	学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。																																																																																																																																
自己評価 (☑を記入)	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☒ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない																																																																																																																																
点検項目に対する 現状説明	大学院総合情報学研究科（博士前期課程および博士後期課程）は、学部教育との連携を強化するために、「情報システム」「社会情報」「ヘルスケア情報」の3つの系列で構成された教育体制を設置している。学生の受入に関しては、学生の受け入れ方針（アドミッションポリシー）に基づき、募集要項に募集要件、博士前期課程における講義内容を提示している。入学者選抜には、学内推薦入試と一般入試がある。学内推薦入試は、2023年度から博士前期課程を6月上旬と7月上旬の2回、試験を実施しており、選抜方法は、書類審査、面接（口述試験）である。一般入試は、博士前期課程を10月上旬と2月中旬の2回、博士後期課程を2月中旬に実施しており、選抜方法は、外国語（英語）、筆記試験（博士後期課程は論文試験）、面接（口述試験）である。入学者選抜の合否判定は、入試結果を、大学院拡大研究科委員会で審議している。 博士前期課程 選抜方法 <table><tr><th>試験時間</th><th>一般</th><th>社会人</th><th>備考</th></tr><tr><td>10:00～11:00</td><td>外国語</td><td>—</td><td>英語辞書（紙の辞書のみ）持込可</td></tr><tr><td>11:30～12:30</td><td>筆記試験</td><td>筆記試験</td><td></td></tr><tr><td>13:30～</td><td>口述試験</td><td>面接</td><td></td></tr></table> ※出願書類、外国語（英語：一般のみ）、筆記試験、口述試験（面接）等を総合して合否判定する。 ※外国語（英語）に持ち込める辞書は、英語辞典（紙の辞書のみ）に限る。 博士後期課程 選抜方法 <table><tr><th>試験時間</th><th>一般</th><th>社会人</th><th>備考</th></tr><tr><td>10:00～11:00</td><td>外国語能力審査</td><td>—</td><td>英語辞書（紙の辞書のみ）持込可</td></tr><tr><td>11:30～12:30</td><td>論文試験</td><td>論文試験</td><td>分野に関する専門知識等の論述審査</td></tr><tr><td>13:30～</td><td>面接試験</td><td>面接試験</td><td>研究計画等に関する口頭試問</td></tr></table> ※出願書類、外国語能力審査（該当者のみ）、論文試験、面接試験の結果を総合して合否判定する。 ※外国語能力審査に持ち込める辞書は、英語辞典（紙の辞書のみ）に限る。	試験時間	一般	社会人	備考	10:00～11:00	外国語	—	英語辞書（紙の辞書のみ）持込可	11:30～12:30	筆記試験	筆記試験		13:30～	口述試験	面接		試験時間	一般	社会人	備考	10:00～11:00	外国語能力審査	—	英語辞書（紙の辞書のみ）持込可	11:30～12:30	論文試験	論文試験	分野に関する専門知識等の論述審査	13:30～	面接試験	面接試験	研究計画等に関する口頭試問	大学院総合情報学研究科（博士前期課程および博士後期課程）の入学者選抜（学内推薦入試と一般入試）に関しては、毎年、大学院拡大研究科委員会で適切性を審議している。 東京情報大学大学院学則第4条に入学生員及び収容定員を定めているが、下記に示すように定員を充足していない。しかしながら、博士前期課程においては、令和5年度の入学者比率は93.3%、令和6年度は86.7%であり、直近2年では定員充足に近づいている状況にある。2023年度から、「総合情報学部将来構想検討委員会」において大学院入試に関する検討を進め、①博士前期課程の学内推薦入試を6月上旬の1回実施から6月上旬と7月上旬の2回実施に改定し、②学部ガイダンスでの大学院の紹介を実施し、③大学院進学のための説明会を2回実施するとともに、在学院生による相談会を実施した。加えて、④学部生のキャリア科目において大学院進学のキャリアパスの説明を実施した。これらが定員充足に近づいた1つの理由と考えられるが、今後定員の充足に向けて、魅力のある大学院教育を構築し、研究活動の活性化を図る必要がある。博士後期課程においては、令和5年度と令和6年度の入学者比率が0%である。今後博士後期課程の定員の充足に向けては、内部進学に加えてリカレント教育の導入や産学官連携研究の活用などによる社会人学生の誘引の検討が必要であり、研究レベルの向上と研究活動の活性化を図る必要がある。 ○過去5年間の入学定員に対する入学者比率 <table><tr><th rowspan="2">年度</th><th colspan="3">前期課程</th><th colspan="3">後期課程</th></tr><tr><th>入学定員</th><th>入学者</th><th>充足率</th><th>入学定員</th><th>入学者</th><th>充足率</th></tr><tr><td>R2</td><td>15</td><td>6</td><td>40.0</td><td>3</td><td>0</td><td>0.0</td></tr><tr><td>R3</td><td>15</td><td>10</td><td>66.7</td><td>3</td><td>0</td><td>0.0</td></tr><tr><td>R4</td><td>15</td><td>9</td><td>60.0</td><td>3</td><td>2</td><td>66.7</td></tr><tr><td>R5</td><td>15</td><td>14</td><td>93.3</td><td>3</td><td>0</td><td>0.0</td></tr><tr><td>R6</td><td>15</td><td>13</td><td>86.7</td><td>3</td><td>0</td><td>0.0</td></tr></table> ○過去5年間の収容定員に対する在籍学生比率 <table><tr><th rowspan="2">年度</th><th colspan="3">前期課程</th><th colspan="3">後期課程</th></tr><tr><th>収容定員</th><th>在籍者</th><th>充足率</th><th>収容定員</th><th>在籍者</th><th>充足率</th></tr><tr><td>R2</td><td>30</td><td>13</td><td>43.3</td><td>9</td><td>3</td><td>33.3</td></tr><tr><td>R3</td><td>30</td><td>16</td><td>53.3</td><td>9</td><td>1</td><td>11.1</td></tr><tr><td>R4</td><td>30</td><td>18</td><td>60.0</td><td>9</td><td>2</td><td>22.2</td></tr><tr><td>R5</td><td>30</td><td>24</td><td>80.0</td><td>9</td><td>2</td><td>22.2</td></tr><tr><td>R6</td><td>30</td><td>28</td><td>93.3</td><td>9</td><td>2</td><td>22.2</td></tr></table>	年度	前期課程			後期課程			入学定員	入学者	充足率	入学定員	入学者	充足率	R2	15	6	40.0	3	0	0.0	R3	15	10	66.7	3	0	0.0	R4	15	9	60.0	3	2	66.7	R5	15	14	93.3	3	0	0.0	R6	15	13	86.7	3	0	0.0	年度	前期課程			後期課程			収容定員	在籍者	充足率	収容定員	在籍者	充足率	R2	30	13	43.3	9	3	33.3	R3	30	16	53.3	9	1	11.1	R4	30	18	60.0	9	2	22.2	R5	30	24	80.0	9	2	22.2	R6	30	28	93.3	9	2	22.2
	試験時間	一般	社会人	備考																																																																																																																														
	10:00～11:00	外国語	—	英語辞書（紙の辞書のみ）持込可																																																																																																																														
	11:30～12:30	筆記試験	筆記試験																																																																																																																															
13:30～	口述試験	面接																																																																																																																																
試験時間	一般	社会人	備考																																																																																																																															
10:00～11:00	外国語能力審査	—	英語辞書（紙の辞書のみ）持込可																																																																																																																															
11:30～12:30	論文試験	論文試験	分野に関する専門知識等の論述審査																																																																																																																															
13:30～	面接試験	面接試験	研究計画等に関する口頭試問																																																																																																																															
年度	前期課程			後期課程																																																																																																																														
	入学定員	入学者	充足率	入学定員	入学者	充足率																																																																																																																												
R2	15	6	40.0	3	0	0.0																																																																																																																												
R3	15	10	66.7	3	0	0.0																																																																																																																												
R4	15	9	60.0	3	2	66.7																																																																																																																												
R5	15	14	93.3	3	0	0.0																																																																																																																												
R6	15	13	86.7	3	0	0.0																																																																																																																												
年度	前期課程			後期課程																																																																																																																														
	収容定員	在籍者	充足率	収容定員	在籍者	充足率																																																																																																																												
R2	30	13	43.3	9	3	33.3																																																																																																																												
R3	30	16	53.3	9	1	11.1																																																																																																																												
R4	30	18	60.0	9	2	22.2																																																																																																																												
R5	30	24	80.0	9	2	22.2																																																																																																																												
R6	30	28	93.3	9	2	22.2																																																																																																																												

現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・特になし	【長所】 ・特になし
	【特色】 ・特になし	【特色】 ・大学院総合情報学研究科の定員充足に向けた取り組みとして、以下の大学院ガイダンスの充実を図った。 ・学部ガイダンスでの大学院の紹介を実施した。 ・大学院進学のための説明会を 2 回実施するとともに、在学院生による相談会を実施した。 ・学部生のキャリア科目において大学院進学のキャリアパスの説明を実施した。
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・特になし	【問題点】 ・博士前期課程に関しては、直近 2 年では定員充足に近づいている状況ではあるが、入学定員を充足できていない。博士後期課程に関しても入学定員を充足できていない。
	【課題】 ・2023 年度から博士前期課程を 6 月上旬と 7 月上旬の 2 回、学内推薦入試を実施しているが、学部学生の就活スケジュールの早期化への対応を再検討する必要がある。	【課題】 ・博士前期課程に関しては、今後定員の充足に向けて、学部 1、2 年次の早期から大学院進学のメリットを伝え、魅力のある大学院教育を構築し、研究活動の活性化を図る必要がある。博士後期課程に関しては、今後定員の充足に向けて、内部進学に加えてリカレント教育の導入や産学官連携研究の活用などによる社会人学生の誘引の検討が必要であり、研究レベルの向上と研究活動の活性化を図る必要がある。
根拠資料名	・第 353 回東京情報大学大学院拡大研究科委員会資料 ・資料 1 東京情報大学大学院（博士前期課程）入試要項 ・資料 1 東京情報大学大学院（博士後期課程）入試要項 ・資料 2 東京情報大学大学院総合情報学研究科（博士前期課程）学内推薦入試の実施について（お知らせ）、大学院（博士前期課程）学内推薦入試のご案内	・第 353 回東京情報大学大学院拡大研究科委員会資料

3. 教員・教員組織に関する点検・評価項目

	①	②	③
点検項目	教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を安定的にかつ十全に展開できる教員組織を編制し、学習成果の達成につながる教育の実現や大学として目指す研究上の成果につなげているか。	教育研究活動等の改善・向上、活性化につながる取り組みを組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上につなげているか。	教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいるか。
自己評価 (☑を記入)	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☒ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない
点検項目に対する 現状説明	専任教員の数に関しては、令和6年4月現在で、指導教授18名であり、文部省告示第百七十五号（大学院設置基準第九条の規定に基づく大学院に専攻ごとに置くものとする教員の数）に示してある工学関係の教員数（原則として、研究指導教員数と研究指導補助教員数を合わせて七以上とする）照らして問題ない。 年齢構成に配慮した教員配置については、学部の教員の年齢構成に依存している。 授業担当における専任教員については、学部の3学系（「情報システム」「数理情報」「社会情報」）の学生を受け入れており、学部教育との接続性を考慮しつつ教育課程編成・実施の方針（カリキュラムポリシー）に基づいた「基礎科目」と「専門科目」を設置し、授業担当を学部の教員で対応している。看護学部の卒業生の大学院への進学に対しては、「ヘルスケア情報系列」を設置し、受け入れ可能としている。ただし、研究科の教育体系、科目構成に対応して教員を配置しているが、教員採用人事に関しては学部の教員組織構成に依存しており、大学院固有で必要な科目に関しては、学部と連携して非常勤を採用している。 研究指導における指導教授及び指導准教授、授業担当教員については、それぞれの専門分野に従って3つの系列に配置し、系列に所属する大学院生の研究指導を行っている。高い専門性と広い視野を養うために複数の指導教授及び指導准教授、授業担当教員による研究指導体制を構築している。	ファカルティ・ディベロップメント（FD）活動については、学部と共同で実施している。 大学院固有のFD活動としては、大学院における教育・研究指導力向上と就職支援を目的として、外部の大学院に所属している講師（大学院教員）による講演を定期的の実施し、大学院教育研究活動等の向上を図っている。教員の質的向上に対しては、大学院の授業ごとの「授業評価アンケート」を実施し、その結果を講義担当者へフィードバックすることで、講義の質の改善・向上を図っている。	研究科の教育体系、科目構成に対応した昇格、採用等の人事を行っている。 教員の個人調書に基づいて、教育研究業績を確認し、研究科の教育体系、科目構成に対応した昇格、採用等を実施している。
現状説明を踏まえた 長所・特色	【長所】 ・特になし	【長所】 ・特になし	【長所】 ・特になし
	【特色】 ・特になし	【特色】 ・特になし	【特色】 ・特になし

現状説明を踏まえた 問題点及び次年度への課題	【問題点】 ・特になし	【問題点】 ・特になし	【問題点】 ・特になし
	【課題】 ・特になし	【課題】 ・2025 年度以降についても継続的に大学院固有の FD 活動の検討を進める。	【課題】 ・特になし
根拠資料名	・学生ハンドブック 2024 （大学院総合情報学研究科） ・大学院の教員の数：文部省告示第百七十五号（大学院設置基準 第九条の規定に基づく大学院に専攻ごとに置くものとする教員 の数）	・東京情報大学ファカルティ・ディベロップメント委員会要 綱 ・大学院における教育・研究指導力向上と就職支援に関する FD 研修	・教員資格審査基準マニュアル ・教員個人調書